

第49号

発行日：平成21年6月18日

発行者：医学研究科広報委員会

印刷：やまと印刷株式会社

弘前大学大学院医学研究科・医学部医学科広報紙

医学部ウーカー

- 1面：医学研究科長医学部長寄稿
 - 2面：弘前国際医学フォーラム第11回学術集会
 - 3面：ノーベル生理学・医学賞受賞者特別講演in弘前
 - 4面：AO入試を振り返って
 - 5面：研究室紹介 病態薬理学講座
 - 6面：ベスト研修医賞選考会・SD章授与式
 - 7面：平成21年度医学科入試総括
 - 8面：人事異動
- 題字 弘前大学長 遠藤正彦氏筆

医学研究科長寄稿

新年度を迎えて

弘前大学大学院医学研究科長・医学部長 佐藤 敬

新年度を迎え、今年もフレッシュな百二十名の新生を迎えられたことを大変喜ばしく思っています。今年は、新しく始まったAO入試によって、学力はもちろん、それだけではなく、広い視点での評価を受けて入学した新入生と、前期入試で学力を中心とした選抜を経て入学した新入生を迎えることができました。また、新三年生には、二十人の学士編入学生が加わりました。多彩なクラスメートの中で、互いに良い影響を及ぼし合いながら、切磋琢磨して下さるようお願いいたします。



昨年度も、六月の学士編入一次試験に始まって、今年二月の前期入試まで、ほぼ一年を通して計六回の入学試験が行われました。五月と八月には、AO入試受験予定者のためにスクーリングを実施しました。八月のスクーリングには、学長にもお話ししましたし、多くの教職員のお蔭で、これらの行事や入試業務をつつがなく終えられたことを、改めて心から感謝します。また、AO入試の二次選抜において実施されたワークショップの準備として、担当者を対象に二回の説明会を実施しましたが、良い学生の選抜のために、教職員の皆さんが遅くまで熱心にディスカッションに積極的に参加していたことは大変印象的でした。前期入試においては、青森県定着枠が新たに設けられ、二段階面接が行われた結果、多くの教職員の協力が必要でした。受験生や高等学校の先生からも、AO入試をはじめとする今年度の入試を高く評価する声が聞こえていますが、これは、教職員一丸となった前向きな取り組みの結果であると思います。入試に限らず、医学研究科・医学科においては、平成二十年度も多数の行事が年間を通して行われましたが、それについて、改めて教職員の皆さんに感謝します。

このようにして新たに迎えることのできた新入生には、AO入試や前期入試の地域定着枠など、将来は、弘前大学を中心に、この地域の医療に貢献するという高邁な意志を持って入学した学生が多数含まれていることを、われわれは、大いに頼もしく思います。しかしながら、入試がいかなるものであろうとも、医療は公共のものであり、医師は、社会の要請に最大限に応える覚悟が必要であることを、すべての学生が自覚して下さるよう、強く訴えたいと思います。当面は、新入生の皆さんが、理想の実現に向けて、自らを育む努力を惜しまないことがあって、はじめて、今年度の入学試験が成功したと言えます。そして、それは新入生に限ったことではありません。医学科学生全員の健闘を祈ります。

科学者発見プロジェクト

附属高度先進医学研究センター 糖鎖工学講座

准教授 柿崎 育子



弘前大学が本年、創立六十周年を迎えるにあたり、記念事業のプレ企画として、二十年度に第一回科学者発見プロジェクトが実施されました。このプロジェクトは、小中学・高校生から提案されたテーマをもとに研究や実験、調査、見学

弘前大学が本年、創立六十周年を迎えるにあたり、記念事業のプレ企画として、二十年度に第一回科学者発見プロジェクトが実施されました。このプロジェクトは、小中学・高校生から提案されたテーマをもとに研究や実験、調査、見学

などを教員とともに実施、体験するものです。県内から百三十四件の応募があり、テーマ賞に選ばれた十七件のテーマのうち、十五件が共同研究を体験しました。医学研究科では、分子生体防御学講座の伊東健教授と糖鎖工学講座の柿崎が担当する機会を得ました。七戸町立城南小学校五年生の盛田宏紀さんから提案された「なぜ食べ物を食べると眠くなるのか？」については、伊東健教授を中心に、鬼島宏教授（病理生命科学講座）、山田勝也准教授（統合機能生理学講座）、松岡貴志助教（神経精神医学講座）のご協力のもと、共同研究が行われました。盛田さんは、実際に睡眠中の自分の脳波を測定したり、顕微鏡を覗いたりして、脳波、眠りに関する因子について学び、その出会いや体験に感動しました。

青森市立北中学校二年生の齋藤圭悟さんからの「なぜO型は蚊に刺されやすいのか？」については、冬休み中の一月八日、テーマに

関連する基本的な情報と国内外の研究状況についての整理、糖質の立体構造に着目した簡単な実験を体験していただきました。初めて白衣を来た齋藤さんは、興味津々の表情で実験し、驚きの表情で体験した結果を書きとめていました。同日、教育学部、農学生命科学部、理工学研究科などで同中学校からの他六件の共同研究も行われました。

プロジェクトの体験は、「夢体験記」として冊子にまとめられ、本学

ホームページからも閲覧できます。このプロジェクトで、二人の生徒さんは、研究というものに興味を持ち、医師を目指す気持ち益々強くしたようです。将来が楽しみです。私もこの体験により、地域の子供さん達に未知のことに触れる機会を提供し、無限の可能性に良い影響を与えるようお手伝いをするという大学の使命にも気がつきました。このような機会をいただきましたことに、関係の皆様方に感謝申し上げます。第二回プロジェクトのご成功をお祈りいたします。



弘前国際医学フォーラム

第11回学術集会

分子生体防御学講座 教授 伊 東 健

平成二十一年三月二十七日（金）、二十八日（土）の両日、医学部コミュニケーションセンターにおいて弘前国際医学フォーラム第十一回学術集会が開催されました。今回の学術集会は、「Emerging Frontiers in Brain Research -Crossroads of metabolic regulation, stress response and disease-」と題して行われ、県内外からのベニ百六人（うち県外百七人）が参加し盛況のうちに終了しました。特別講演としてカナダのBrian McVicar博士と大阪バイオサイエンスの裏出良博先生にご講演をいただき、ま



た、ランチョンセミナーでは米国 Mayo Clinic の Steven Yonkin 先生にご講演いただきました。その他にも、国内から九名、国外から四名の先生方にご講演いただき、五つのシンポジウムを行いました（詳しくは、医学部ウォーカー第四十七号をご覧ください）。一口に脳疾患、脳機能研究といったも、代謝制御やストレス応答、変性疾患や虚血障害などの様々な切り口があります。本学術集会では、それらの切り口の境界領域において、換言すれば様々な視点からの知識の統合によりより深い理解や新しい視点を期待して上記のサブタイトルを考えました。今回、国内外の最先端で活躍されている先生方が自身の専門分野を超えて二日間、にわたって討論できたことは大変素晴らしいこと、そのような試みが少なくとも部分的には成功に終わったのではないかと自負しています。さらには、招待の先生方に先頭の切っ掛けを白熱した議論を展開していただいたこと、弘前大学の各先生と遠路お越しいただいた

国内外の先生方との友情の深さを感じることができたことなどは、運営する側にとって大変大きな喜びであり、科学は人と人とのつながりで進んでいることを再認識しました。本学術集会は実はまだ終わったわけではなく、学術集会の記録集を弘前医学の増刊号として今年の秋頃をめどに出版する予定です。今回の学術集会の成功を象徴するようなものになるものと確信していますので、出版された際には是非ご一読いただけるようよろしくお願いいたします。

学会の初日前日は、それまでの晴天が嘘のような三月末にしては珍しい吹雪でした。あそこで飛行機が着陸していなかったらと思うとぞっとする思いですが、今となつてはそれもいい思い出となりました。今回、名誉ある学術集会を運営するという大変貴重な機会を

新カリキュラムの導入について

カリキュラム改正WG委員長 中 根 明 夫
(感染生体防御学講座教授)

平成十六年度から、モデルコアカリキュラムに沿った「コア科目」や医学の進歩を臨床応変に取り入れる選択必修科目としての「発展科目」を中心としたカリキュラムが導入されました。そのカリキュラムは平成二十一年度現在、六年次まで適応されるに至りました。その一方、改正カリキュラムの問題点も出てきました。何より、三年次学士編入学生と二年次改訂カリキュラムの問題点が系統的ではないということが大きな問題として指摘されています。このような問題を踏まえると同時に、試験選抜と卒前教育を連動させる必要があるという佐藤敬医学部長の方針のもと、平成十八年十一月に「カリキュラム改正ワーキンググループ」が立ち上がり、検討を始めた。委員は蔵田 潔教授（統合機能生理学講座）、上野伸哉教授（脳神経生理学講座）、伊藤悦朗教授（小児科学講座）、廣田和美教授（麻酔科学講座）、木村博人教授（歯科口腔外科学講

と確信していますので、出版された際には是非ご一読いただけるようよろしくお願いいたします。

学会の初日前日は、それまでの晴天が嘘のような三月末にしては珍しい吹雪でした。あそこで飛行機が着陸していなかったらと思うとぞっとする思いですが、今となつてはそれもいい思い出となりました。今回、名誉ある学術集会を運営するという大変貴重な機会を

与えていただき感謝しております。

最後になりますが、実行委員を代表して本学会を支援して下さった多くの方々、参加していただいた先生方に心より感謝いたします。弘前においてこの伝統ある国際学術集会が開催されていることは我々の誇りであります。今後ともご支援の程どうぞよろしくお願いたします。

第一に、冒頭でも述べましたが、三年次学士編入学生の三年次のカリキュラムが学問体系順に教育されていない、また、時間割が超過密になっている、という大きな問題があります。新カリキュラムでは、学士編入を二年次後期に変更することを前提とし、解剖学、生理学、生化学といった専門教育科目を一般入学生と学士編入学生が同時スタートで受講できるようにしました。これによって、学士編入学生

の過密スケジュールが解消され、さらに科目によって異なる学年と一緒に受講したり実習を行ったりということとはなくなります。第二に、コアカリキュラムに基づく科目編成（大科目）をやめ、従来の学問体系に基づいた小科目として編成をしたことです。これは、コアカリキュラムを無視するというのではなく、小科目にコアカリキュラムを当てはめていくということです。また、現行カリキュラムの科目名が抽象的でわかりにくいこともあり、科目内容が科目名でイメージできるような変更しました。また、現行の大科目では成績判定等について混乱する場合もありましたが、新カリキュラムでは各科目代表は対応する講座単位にすることにしました。第三に、発展科目を廃止しました。現行カリキュラムでは、発展科目などを設定するため、特に基礎医学専門科目の講義、実習

分、過密な授業内容となつているケースも少なくなく、その改善のために、発展科目の時間を専門科目の講義・実習時間に振り分けました。第四に、新カリキュラムでは二年次後期から一斉に専門科目を開始するため、一般入学生に対しては専門教育準備科目を十分に入れることができました。現行の「臨床医学入門実習」は、一年次の九月に集中して行つてきましたが、新カリキュラムでは「臨床医学入門」として一年間にわたって、医師としての素養を涵養する実習を開始しました。また二年次前期には「基礎医学概論」「臨床医学概論」を新設しました。第五に、地域医療に関する内容を充実させるために、上述の「臨床医学入門」にその内容を盛り込み、二年次前期に「地域医療入門」、そして四年次後期に「地域医療学」を新設しました。これらの科目は六年次前期のクリニカルラークシップの「へき地医療実習」とつながって

ていきます。第六に、現行カリキュラムでは一般入学生のみならず三年次後期に「研究室研修」を課していますが、新カリキュラムでは、学士編入も含めすべての学生に、研究者マインドを持たせるため、また卒業後のことも考慮しなるべく高学年でという希望もあり、四年次前期に移しました。

このように、新カリキュラムの特長を述べましたが、カリキュラムは作成したことで作業が終わるわけではなく、学年進行に伴う新カリキュラムの実施、さらにその検証・改善を行っていくことが重要です。そのような理由で、カリキュラム改正WGは解散せず、引き続きカリキュラムに関する活動を続けていく予定です。今後ともいろいろなご意見をいただきながら、より良いカリキュラムを提供していきたいと考えています。先生方には私どもの活動をご理解していただき、今後ともご協力をお願い申し上げます。

新カリキュラム表

	授業科目名	単位	1年		2年		3年		4年		5年		6年		備考
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門基礎科目	医学英語Ⅰ	1		1											
	医学英語Ⅱ	1							1						○
	医用統計学	1			1										
コア科目	計	3		1	1				1						
	医の原則Ⅰ	1	1		1										
	医の原則Ⅱ	1			1										
	基礎医学概論	2			2										
	臨床医学概論	2			2										
	地域医療入門	2			2										
	解剖学	4				4									○
	生理学	2				2									○
	生化学	2				2									○
	免疫学	1				1									○
	組織学	1					1								○
	神経科学	1					1								○
	薬理学	3					2	1							○
	病理学	3					2	1							○
	微生物学	3					3								○
	社会医学	2					2								○
	外科学概論	1						1							○
	消化器内科学・外科学Ⅰ	2						2							○
	消化器内科学・外科学Ⅱ	1							1						○
	循環器内科学・外科学Ⅰ	2						2							○
	循環器内科学・外科学Ⅱ	1							1						○
	内分泌・代謝学Ⅰ	2						2							○
	内分泌・代謝学Ⅱ	1							1						○
	血液内科学Ⅰ	1						1							○
	血液内科学Ⅱ	1							1						○
	呼吸器内科学・外科学Ⅰ	1						1							○
	呼吸器内科学・外科学Ⅱ	1							1						○
	感染症学	1						1							○
	臨床免疫学	1							1						○
	神経精神医学Ⅰ	1						1							○
	神経精神医学Ⅱ	1							1						○
	小児科学Ⅰ	1						1							○
	小児科学Ⅱ	1							1						○
	婦人科学	1						1							○
専門科目	産婦人科学	2							1	1					○
	神経内科学	1							1						○
	腎臓内科学	1							1						○
	産科学	1							1						○
	整形外科・リハビリテーション医学	2							1	1					○
	麻酔科学・緩和医療学	2							1	1					○
	放射線診断学	1								1					○
	放射線腫瘍学	1								1					○
	臨床腫瘍学	1								1					○
	皮膚科学	1								1					○
	泌尿器科学	1								1					○
	眼科学	1								1					○
	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	1								1					○
	脳神経外科学	1								1					○
	歯科口腔外科学	1								1					○
	形成外科学	1								1					○
	救急・災害医学	1								1					○
	臨床検査医学	1								1					○
	臨床薬理・和漢薬学	1								1					○
	小児外科学	1								1					○
	病理診断学	1								1					○
	法医学	1								1					○
	医療安全学	1								1					○
	地域医療学	1								1					○
演習・実習科目	計	78	1		7	9	11	15	15	20					○
	基礎人体科学演習	4	2	2											
	臨床医学入門	4	2	2											
	臨床実地体験実習	2			2										
	PSL	6			6										
	解剖学実習	3				3									○
	生理学実習	2				2									○
	生化学実習	2				2									○
	組織学実習	1					1								○
	神経科学実習	1					1								○
	薬理学実習	1					1								○
	病理学実習	2					1	1							○
	微生物学実習	1					1								○
	社会医学実習	2					2								○
計	臨床実習入門 (PreBSL/OSOE)	1							1						○
	臨床実習Ⅰ (学内BSL)	40								40					○
	臨床実習Ⅱ (クリニカルラークシップ)	12									12				○
	総合教育演習Ⅰ (CBT)	1							1						○
	総合教育演習Ⅱ (総合試験)	1											1		○
	特別教育科目 (研究室研修)	3							3						○
	計	89	4	4	8	7	7	1	3	2	40	12	1		○
合計	計	167	5	4	15	16	18	16	18	22	40	12	1		○
	合計	170	5	3	16	16	18	16	19	22	40	12	1		○

備考 ○印は学士編入学者が修得しなければならない科目を表す。

ノーベル生理学・医学賞受賞者 特別講演 in 弘前

病態薬理学講座 教授 元村 成



ノーベル生理学・医学賞受賞者特別講演 in 弘前2009年3月12日
ノーベル賞受賞者講演時のタイトル “Turning Pages” そのままのスライド

二〇〇九年三月十二日十八時三十分、いよさし Oliver Smithies 教授の講演が弘前大学医学部臨床大講義室で始まった。二〇〇七年のノーベル生理学・医学賞受賞者の特別講演である。演題は “60 years Science: from Gels to Gene Targetings”、意訳すれば「科学研究六十年：ゲルから遺伝子改変まで」。一九二五年生まれの Smithies 教授は八十三歳とは思えない若々しい天才少年そのままに Science が楽しくて仕方がないといったお気持ちのヒシヒシと伝わる素晴らしい講演をして下さった。特にマスコミに知

たか心臓関係で著名な米国人のお知り合いはいらっしゃいませんかと世間話をしていたら、実は助教の富田泰史先生が二〇〇七年十二月にノーベル賞を取ったばかりの Smithies 教授の元で研究しているという。奥村教授の許可を取って富田先生と連絡を取り、まだ受賞から三ヶ月しか経っておらず、一日千通を超えるメールが来て、Smithies 教授の一年先の予定を秘書さんに聞いてもらい、薬理学会の Plenary Lecture に来ていただけるかお願いした。富田先生の口添えもありご快諾を得た。年会長としては天にも上る心地だった。先ず、全面的にご支援頂いた奥村謙教授に感謝致します。又、佐藤敬医学部長には年会と医学部の共催を、ご了承頂き、Smithies 教授への謝辞も賜り感謝申し上げます。

Smithies 教授は一九六〇年代には既に講演タイトルに Gels とあるように電気泳動法の発明者として世界的に有名な科学者でしたが、今回のノーベル賞受賞対象となったのは一九八〇年代にマウスで遺伝子改変 Gene Targeting の基本原理を発見した事によります。講演の中で手作りの電気泳動装置や PCR の装置が出て来て、一際印象深いものがありました。Science を楽しみ、パイロットライゼ



ノーベル生理学・医学賞受賞者
特別講演 in 弘前2009年3月12日

スをお持ちで飛行機操縦を楽しみ、奥様 (Nobuyo Maeda 教授) をこよなく愛する。頭で考えたものを形にしてしまう本当の天才を弘前の地に迎える事が出来たことを望外の喜びと致します。後日談ですが、横浜での Plenary Lecture “Two Mouse Tales” も大成功で、今を待てく京都大学の山中伸弥教授も入った三人写真は私の宝物の一つに成りそうです。

大学院の充足率について

学事委員長 若林孝一
(脳神経病理学講座教授)

平成十九年四月に大学院医学研究科が部局化されてから二年が経過しました。この部局化は大学院の教育研究活動の比重が高まってきたことに対する措置でもあります。

Smithies 教授は一九六〇年代には既に講演タイトルに Gels とあるように電気泳動法の発明者として世界的に有名な科学者でしたが、今回のノーベル賞受賞対象となったのは一九八〇年代にマウスで遺伝子改変 Gene Targeting の基本原理を発見した事によります。講演の中で手作りの電気泳動装置や PCR の装置が出て来て、一際印象深いものがありました。Science を楽しみ、パイロットライゼ

(1) なぜ充足率が重視されるのか

現在、文科省は各大学に對し大学院の充足率が九十パーセント以上となること

(2) 大学院の入学定員

医学研究科の入学定員は平成十八年度まで六十四名でしたが、保健学研究科博

士後期課程に定員九名を振り替えたことにより平成十九年度から五十五名となりました。さらに、医学部医学科の入学定員が「経済財政改革の基本方針二〇〇八」によって五名増加したことに伴い、大学院は五名減って、今年度から五十名となりました。したがって、現在の大学院の総定員は、四年生六十四名、三年生と二年生が五十五名、一年生が五十名であり、合計すると二百二十四名となります。

(3) 大学院の入学人数

図1に過去十年間の入学人数を示します。多少の増減はありますが、過去十年間の入学人数の平均は四十・六名であり、ここ三年間は四十五名以上を確保しています。さらに、図2は

(4) 大学院の充足率

図3は入学定員に対する充足率を年度ごとに示したものです。平成十二年度から十八年度まで入学定員に対する充足率は約四十から八十パーセントの間を推移し、平均すると六十パーセント程度でしたが、十九年度と二十年度は八十四パーセントと上昇し、二十一年

(5) 充足率アップのために

医学部医学科の入学定員が従来の百名から百二十名に増加し、AO入試、青森県定着枠の新設などの入試改革も進められています。大学院入試も例年三次募集まで行い、平成十九年度か

図1 大学院の入学人数

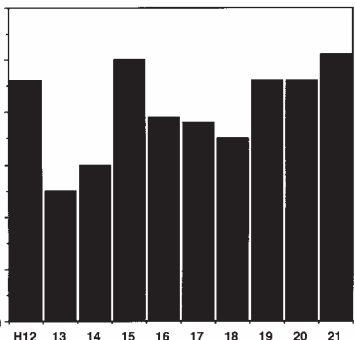


図2 社会人入学者の割合

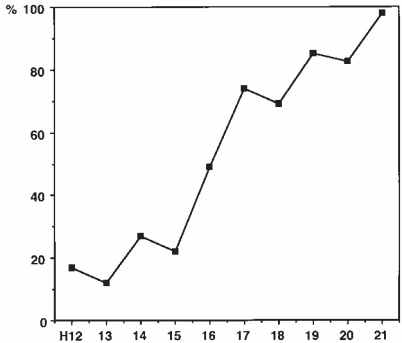


図3 入学定員に対する充足率

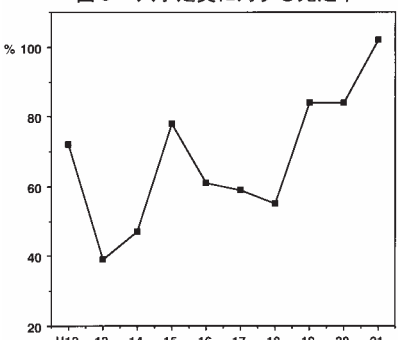
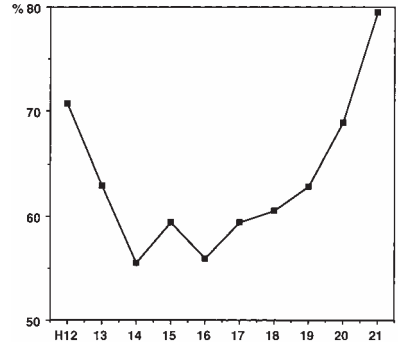


図4 大学院全体の充足率



らは指導教授が許可した場合には臨床研修の二年目から大学院入学を認めることにしました。大学院生の確保のためには、卒業後に本学あるいは青森県に残ってくれる学生を増やし、それによって大学院生ならびに指導教員が研究に専念できる時間的余裕を作ることが肝要と思われるます。大学院の充足率アップは医学研究科全体のアクティビティ向上にも通ずる重要な事項です。ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

AO入試を振り返って

医学科入試専門委員長 中 根 明 夫
(感染症体防衛学講座教授)

入学試験の勝者になるかどうかは基本的に学力の勝負です。そのために大学を目指す受験生は、一点でも高い点数を取るべく日夜受験勉強に励んでいることでしょう。大学も一点でも高い点数を取る受験者を「優秀な人間」として合格させ、大学教育を施していきたい。進学高校の実力の指標として、東京大学を頂点とした超難関大学への合格者数が挙げられます。それに加え、現在は医学部医学科への合格者数もそれに匹敵する基準になっていいます。それでは、超難関大学や医学部を突破した学生がそのまま一生を保証されるのでしょうか？あるいは専門とした分野で常にトップを走れるのでしょうか？大学入学時で人間の一生が決まるのであれば簡単であり、勝者はその後努力しなくても順風満帆の人生を送れることになりそうですし、その仲間に入れなかった人間は努力をしてもその対価が得られないということになります。しかし、大学に在学中、さらに卒業後のその人間の評価は、学力のみによるものではなく、才能、人間性、社会性などさまざまな要素を含んだものになります。特に医師は、さまざまな要素の総合力が重要である職種です。研究者も然りです。従って、医学部の入試選抜では、「学力」のみで選抜するよりは「学

力」プラス「人間性等の総合力」を以て評価するというのは理にかなっていると考えます。また「人間性等の総合力」を面接のみで正当に評価するのは難しいことと思います。そのような観点から、医学科の入試選抜方法としてAO入試を導入することについては、必然の選択であると確信しています。

医学科におけるAO入試導入・実施にあたり、医学科の先生方はもちろん、高校の先生、受験者、そして保護者の方々から賛否両論、さまざまなご意見を頂戴しました。このような大きな反響は、AO入試に対する「多大な関心」と「各人の思い」があることと真摯に受け止めるなければいけないと思っています。AO入試は米国では当たり前に行われている入試選抜方法ですが、日本ではどのような目的でどのような学生を求めているのかにより、全国の各大学、各学部、各学科において、さまざまな方法で実施されています。多くは学力を勘案しない実施方法によることから、AO入試による入学者の学力低下が問題視され、「AO入試は問題である」という一般的な印象が広まり、AO入試による選抜を中止する大学も出てきているのが現状かと認識しています。その中で、弘前大学医学部医学科がAO入試を実施するこ

と「医学教育に適った資質をもつ人間性の評価」という、全く異なる評価をどのようなバランスで行うか、大いに逡巡しました。その結果、第一次選抜を「模擬講義を受講した後それに関する筆記試験」「与えられた課題を与えられた資料を基にまとめたレポートの評価」「集団面接」、これらに調査書の評価を加えることにしました。第二次選抜では「個人面接」「PreBSJや初期臨床研修に取り入れられているワークシヨップによる共同作業中の評価」、そして大学入試センター試験を資格試験としました。昨春、AO入試ワーキンググ

ループを立ち上げ、それぞれの委員を責任者として各選抜について具体化し、実施されました。ワーキンググループのメンバーは入試の出題委員という立場です。氏名は公表できませんが、多大な時間と労力を割いていただき、深く感謝しています。また、各選抜の実施をお願いした先生方には、厚くお礼申し上げます。平成二十二年以降のAO入試は、前年度の実施結果の振り返りをフィードバックしたマイナーチェンジを行いながら行っていく予定です。今年もご協力をお願い申し上げます。

心の遺伝子 リポジトリ形成に関して

脳神経生理学講座 教授 上 野 伸 哉

運営費交付金概算要求の事業名「心の遺伝子リポジトリ形成 ―行動解析と分子細胞生物学解析による総合的遺伝子機能研究―」が本年平成二十一年度より認められました。遺伝子改変動物の個体レベルでの機能解析と、分子細胞レベルでの生物学的解析によって個々の遺伝子の機能や、複数の遺伝子の相互作用を追究し、より詳細かつ網羅的に遺伝子機能を明らかにすることを目的とし、将来的には遺伝子治療や個別化治療の開発へつなげることを目指すものです。特に本事業では、遺伝子改変動物の個体レベルおよび分子細胞レベルにおける機能解析により、不安障害、ストレス障害をはじめとした種々の

精神疾患の責任遺伝子、疾患感受性遺伝子群の探索、タイトル名にもあるようにいわゆる『心の遺伝子』の探索を進展させていく予定です。

本事業の背景として、遺伝子機能解析において遺伝子改変動物（トランスジェニック動物、遺伝子ノックアウトマウス）は大きな成果を挙げてきましたが、従来の遺伝子改変動物の中には明確な表現型を示さない例も数多く、そのような動物を詳細に表現型解析することにより、隠れていた遺伝子の機能を明らかにし、新たな疾患モデルの可能性を示すと考えられます。

本年度内容として、まず網羅的行動解析構築より着手します。医学研究科附属

平成二十年度弘前大学学生表彰

教育・学生委員会 鬼 島 宏
(病理生命科学講座教授)

出場、アップルマラソン・フルマラソン女子優勝
四茂野恵奈（三年）第三十八回北医体バドミントン女子単三位・女子複三位、第五十一回東医体バドミントン女子団体三位
石野瞳子（六年）第三十八回北医体バドミントン女子複三位、第五十一回東医体バドミントン女子団体三位・女子単三位
内田康幸（三年）第五十一回東医体空手道男子総合・団体形・団体組手優勝、同個人組手準優勝
小林麻美（五年）第五十一回東医体空手道女子個人形三位
小渡亮介（五年）第五十一回東医体空手道男子総合・団体形・団体組手優勝

である。一方で、今回の学生表彰では、研究活動・社会活動等で顕著な成果を挙げた学生が含まれていなかったのは、少々残念である。医学科三年次後期には研究室研修のカリキュラムもあり、在学中から研究に触れる機会があるので、将来的には研究活動でも表彰の対象となる学生が現れてくれることを望む次第である。今後も、学生諸君が弘前大学医学部医学科で文武両道を実践するとともに、より一層充実した大学生活を送ることを期待している。



動物実験施設内にシールドルームをはじめとした環境整備と、行動解析システムの選定及び導入を予定しています。既に、弘前大学は医学研究科を中心に多数の遺伝子改変動物を新たに作成し、その一部については病態モデル動物として特許を取得しています。また、ヒトにおける心理過程や精神疾患と関連する遺伝子多型等についても精力的に解

析してきた実績があります。特にニコチン性アセチルコリン受容体にヒトてんかん疾患と同じ変異を導入した遺伝子改変動物や、中枢神経における抑制性物質GABAに対するGABA受容体輸送蛋白のノックアウトマウスにおいて、けいれん発作のみならず、ストレス耐性の低下、不安障害などの行動学的な異常を見いだしており、本

事業の候補遺伝子群の探索の突破口として、さらなる解析を予定しています。

本事業のもう一つの重要な目的として、心の遺伝子機能探索の拠点形成があります。そのため国内および学内の多施設共同研究体制の整備、国内外の研究者の招へい等により大学院教育・研究の充実と、人材育成を含め推進していきたいと考えています。

研究室紹介

病態薬理学講座

病態生理に基づく薬理学

十年前にも研究室紹介を、同じく医学部ウォーカーに書かせて頂きました（一九九九年、第十一号）。元村教授、古川准教授以下六名という構成は変わっていませんが、平成十九年の大学院部局化の際、名称を薬理学講座から、病態薬理学講座に変更しました。名称変更を示す通り、薬理学は病態生理を踏まえたものでなければならぬという考えの下、より病態に即した薬理学の教育と研究を行うことを目指しています。そのためには臨床講座との連携は不可欠です。現在、循環呼吸腎臓内科学、胸部

病態薬理学講座 准教授 古川 賢 一

心臓血管外科学、整形外科学、麻酔科学の各講座と共同研究を進めています。講座間の連携を一層進めるため、循環器病研究センターの構成講座ともなっています。また治療薬のシーズを探索するため、天然生活活性物質の研究を行っている理工学部、教育学部そして東北大学薬学研究科の各研究室とも協力関係にあります。研究テーマは、1)さまざまな疾患の予後を悪化させる異所性骨化・石灰化の発症・進展における細胞形質転換の意義と、そのメカニズムの解明に基づく治療薬の開発、2)再生医学に関連して、間葉系幹細胞の分化誘導をコントロールする生理活性物質の探索などになります。一方、薬理学の教育では上記の研究成果を生かしつつ、臨床薬理学、薬剤学の各講座と連携して講義と実習を行っていきます。さらに導入教育の重要性に鑑み、二十

一般社会にも情報発信することを求められています。学内教育や研究業績を論文として発表するだけでなく、社会貢献にも力を注ぐ必要があります。その点から、ここ十年の当講座のイベントを振り返ってみると、弘前国際医学フォーラムの主催（神経精神医学、臨床薬理学との共同）、日本薬理学会北部会の主催（弘前）などの学会主催を行ってき

名の大きな通常年会に加え、日中ジョイントミーティングを併催し、中国の薬理学研究者も約百名参加しました。年会のメインテーマも、病態生理に基づく薬理学とし、当講座の標榜する病態薬理学と合致するもので、薬理学の目指すべき姿を国内外に示すことができたのではないかと思います。特に、二〇〇七年ノーベル生理学・医学賞受賞の Oliver Smithies 教授によるプレナリーレクチャーはサイエンスの面白さを再認識させて下さいました。Smithies 教授には弘前大学医学部でも御講演頂きました（本号別稿参照）。また市民公開講座を通じて研究者以外の一般の方々にも薬理学の重要性を伝えることができました。今後、薬理学の切り口で、弘前大学における医学教育ならびに研究にユニークな貢献をして行きたいと考えています。

平成21年度

学位記伝達式

広報委員会委員 澤村 大輔

(皮膚科学講座教授)

去る三月二十四日午前十一時から、医学部コミュニケーションセンター大ホールにおいて、平成二十年度学位記（医学士）伝達式が、遠藤正彦学長、石戸谷忻一、鵬桜会理事長ご列席のもとで行われた。平成二十年度医学部医学科卒業生総数は百二名であり、この中には三年次学士編入学制度三回目の卒業生二十名も含まれていた。今年度の卒業生

大学は社会と隔絶した存在であることはもはや許さず、積極的に一

は、国家試験合格者率（新卒）九十七パーセントを記録しており、学位記伝達式では六年間（ないしは学士編入四年間）の勉学の苦勞を乗り越えた達成感と、今後の前期研修に向けて希望に満ちた気持ちを一杯で表現していた。

佐藤 敬医学部長から卒業生一人一人に対して学位記の伝達が粛々と行われる中、会場を埋め尽くした卒業生

弘前大学医学部医学科

卒業生を祝う

第55回卒業記念謝恩会

広報委員会委員 澤村 大輔

(皮膚科学講座教授)

平成二十一年三月二十四日午後五時三十分から、ホテルニューキャッスルにて医学部医学科第五十五回の卒業記念謝恩会が開かれ、卒業式の興奮がそのまま会場に引き継がれた大変盛況な会になりました。卒業生や教授がよく交流できるようにと今年も立食形式で行われました。また、この二月九日にご逝去された阿部由直教授も天国からお写真で参加されました。六年や四年間の学生生活に別れを告げ旅立つ男性卒業生はスーツ、女性卒業生はドレスや着物で凛々しく、これからの二年間の前期研修もすっかりやられる予感がしました。



四〇七、六二九）、全体で九十一・〇％（七、六六八／八、四二八）」と比べても高い水準にあり、卒業生の頑張りが実を結んだ形となった。

卒業生の地域別研修先（付表参照）は、青森県内が三十四名（三十三・七％）であった。一昨年二十七名、昨年三十五名と増加傾向であったが今年はおおよそ横ばいに推移した。一方、北海道・東北（青森を除く）が約十五％、関東・東京が二十五％、中部以西が十五％であった。

青森県内三十四名、うち弘前大学医学部附属病院十三名（プログラム A 二名、B 七名、C 三名、D 一名）は、まだまだ憂慮すべき少なさであるには変わりはない。本学では、地域医療と連携するシステムの導入など各診療科では工夫された卒業研修プログラムを組んでいる。弘前医療圏での活躍を期待するべく、二年後に第一線の医療現場での臨床研修を終了した今回の卒業生が一人でも多く、自らの医療・医学の素養を磨くために、後期研修で母校附属病院に戻る選択をしてほしい。

平成二十年度

卒業生進路状況

副学務委員長 鬼島 宏

(病理生命科学講座教授)

H19～H20卒業生進路状況

	平成19年度卒業生進路		平成20年度卒業生進路	
	人数	%	人数	%
青森県	35	34.3%	34	33.7%
北海道	8	7.8%	10	9.9%
東北(青森県以外)	13	12.7%	15	14.9%
関東	11	10.8%	15	14.9%
東京	6	5.9%	9	8.9%
中部	11	10.8%	9	8.9%
近畿以西	10	9.8%	5	4.0%
不合格・その他	8	7.8%	5	5.0%
合計	102	100.0%	102	100.0%
国家試験合格者	101	99.0%	98	97.0%

まず第百三回医師国家試験の結果について報告する。弘前大学の国家試験合格者は新卒九十七・〇％（九十八／一〇一）、全体九十五・二％（九十九／一〇四）と去年の新卒九十九・〇％には劣るものの素晴らしい結果であった。新卒の医師国家試験合格率九十五％以上という、弘前大学の掲げる目標も達成された。全国平均の合格率「新卒九十四・八％（七、三二

平成20年度 ベスト研修医賞選考会

卒後臨床研修センター長 加藤 博之
(総合診療医学講座教授)



列を作ってベスト研修医賞の投票を行う学生諸君。

平成二十年度ベスト研修医賞選考会が平成二十一年二月二十七日十八時より、医学部コミュニケーションセンターで開催された。ベスト研修医賞は平成十六年度からの卒後臨床研修必修化に合わせて本学に創設された賞であり、今回で五回目を迎える。当日は、あらかじめ卒後臨床研修センター運営委員会により優秀研修医に選ばれた齊藤良明先生(一年次)、竹内朗子先生(二年次)、吉澤佳織先生(一年次)(五十音順)の三名の研修医が、「ここがポイント!」と題し、この一年間の研修生活で自分が重視してきたことについて、一人十分間ずつスピーチを行った。聴衆は学生および教職員で、スピーチのあとに参加した四十九名の学生諸君(特にこの一年間臨床実習で研修医に間近に接してきた五年生が中心)による投票が行われ、吉澤佳織先生が平成二十年度ベスト研修医に選ばれた。引き続き表



ベスト研修医賞選考会で研修医の発表に聞き入る参加者たち。

彰式が行われ、吉澤先生に賞状、純銀製メダル、記念品が、次点となった齊藤、竹内両先生には優秀研修医賞として賞状、楯、記念品が贈られた。その他にも各種特別賞として、この一年間コマディカルスタッフから最も高い評価を受けた吉澤佳織先生に「ベストパートナー賞」、研修医が提出すべき各種症例レポートを最も一生懸命書いた齊藤良明先生に「レポート大賞」、この一年間の研修医向け各種セミナーの出席率が最高であった渡邊清登先生に「セミナー賞」が贈られた。さらに事務方からも、研修関係の事務手続きに今年最も迅速かつ正確に協力してくれた鎌田耕輔先生に、感謝の意を込めて「久保田賞」が贈られた。つづいて懇親会に移ったが、五年生から今や恒例となった「ベスト指導医賞」、「ベスト六年生賞」



ベスト研修医に贈呈されたメダル(純銀製)。



花田病院長よりベスト研修医賞メダルを贈呈される吉澤佳織先生。

の発表が本年も行われ、会場は大いに盛り上がった。教職員も多数の参加があり、教職員、研修医、学生がみな、この一年の研修や臨床実習の思い出について、更には将来の夢について心ゆくまで語り合い、会は盛会裏に終了した。
本学の「ベスト研修医賞」にはおそらく他施設・他学にはない本学独自のユニークな特徴がある。それは賞の最終選考を学生(特に五年生)が投票により行うことであり、このことは教育上大きな意味を持っている。そもそも研修医と五年次学生は立場の違いはあれ、約一年にわたり院内で同じ場を共有し、苦楽を共にしてきた間柄である。学生は、比較的年次が近く、

それでいて確実に一日の長を示す先輩である研修医から多くを学び、学ぶ過程の交流を通じて、近未来の自分の姿に思いを馳せるようになるであろう。現研修医たちも自分が五年生のときには、当時の研修医から同様に多くを学んで育ってきたのである。医師の育つ過程にはこのようなある種の「伝統」が不可欠だ。本賞がこれからも、卒前卒後に連携する「屋根瓦方

式」教育を促進し、本学の医学教育の「伝統」の厚みを増すために貢献してゆくことを期待したい。



花田病院長、佐藤医学研究科長と共に、ベスト研修医賞の吉澤佳織先生(前列中央)、優秀研修医賞の竹内朗子先生(同左)、齊藤良明先生(同右)。

平成21年度 SD章授与式

学務委員長 奥村 謙
(循環呼吸臓内科学講座教授)

平成二十一年四月二日、医学部コミュニケーションセンター(MCC)において五年次学生に対するSD章(Student Doctor章)授与式が行われた。加藤博之教授(総合診療医学講座)の提案で平成十七年度より始められたSD章授与式は本年度で五回目を迎えたが、弘前大学医学部医学科の春の行事として定着したものと思われる。新五年次学生全員が臨床実習そのまの白衣姿で臨み、心体ともに臨床実習に向かう真摯な気持ちで満ちているようであった。SD章は臨床実習生の身分証であるが、同時

- 生「の誓い」
1. 臨床実習生の一人として医療の現場に参加するに際し、私は、人類への奉仕に自分の人生を捧げることを誓います。
 2. 私は、学び得た医学知識をもとに、良心と尊厳をもって医学の務めを果たします。
 3. 私は、生命の始まりから人命を最大限に尊重し続けます。また、人間の性の法理に反して医学の知識を用いることはしません。
 4. 私は、患者の健康を私の第一の関心事とします。
 5. 私は、私への信頼のゆえに知り得た患者の秘密を、たとえその死後においても尊重します。
 6. 私は、私を教え導く人々に尊敬と感謝の念を捧げます。
 7. 私は、私の自由意志に基づき名誉にかけてこれらのことを厳粛に誓います。

授与式には医学部関係者以外に学生達がOSCEで世話になった模擬患者(S-P)の方々も参加され、SD章の授与を見守っていた。またマスコミの取材もあり、いい意味での緊張感が会場に満ちていた。以下に授与式終了後、学生が書いた感想を紹介するが、それぞれがBSLに臨む決意を新たに、「気持ちを引き締まる」、「不安もあるが一生懸命頑張りたい」という思いが多数を占めていた。

『これから臨床の現場に出るにあたり、まだまだ未熟な面が多く不安で胸がいっぱいであるが、Student Doctorの名に恥じぬよう技能や知識を身に付け、一医療人として自覚を持って臨む覚悟である』(男子学生)

『授与式に参加して改めて五年生で臨床実習に臨むということを実感でき気持ちを引き締めることができました。今までは教科書や写真などを見て学んでいたことが、これからは実際の患者さん相手に自分の目で実際に見て学ぶことになるのでしっかりと学習して身に付けていこうと思います』(女子学生)

『五年生になったことを改めて実感しました。今は期待と不安の板挟みの状態です。ただ、今できることを精一杯頑張ろうと思います』(男子学生)

『自分を迫られる時が来たという気持ちです。今までのような学生ではなく「医学生」としてのスタートだと強く思いました。患者さんが待っていると考えると難しい気持ちです』(男子学生)

『SD章というのはどこかの大学でも当たり前に配布されるものだと思っていたので、特別なものだと思って改めて気持ちが引き締まりました。来週から襟を正して実習に臨みたいと思います』(女子学生)

『いよいよ実習が始まるにあたり、もはや自分の知識や行動が自分のためだけのものではないということを感じています。今後は患者さんの気持ち、快適さを第一に考えそれに伴うように自らを成長させていきたいと思っています』(女子学生)

『高校の同級生も昨日から社会人になったように、自分も社会人になるような気持ちで、自覚を持って実習に臨みたいと思った』(男子学生)

『とうとう五年生となって病院実習が始まるんだなと思った。こまめくろのに勉強が大変だったが、あつという間違った。また新たに気持ちを引き締めて頑張っていきたいと思う』(女子学生)

『授与式に参加し、改めて身の引き締まる思いがしました。一日一日を大切に、日々精進します。また、自らチャンスを作り、そのチャンスを生かしながら成長していきたいと思えます。そして常に患者さんへの感謝の気持ちを忘れずに実習に取り組みたいです』(女子学生)

『五年生となりBSLに進めるとなったとき、当初はワクワクする気持ちが強かった。しかしその日が近づくにつれ畏れが心の八割程度を占めていると言っても過言でない。はつきり言って全く自信がない。これを越えてどこまで自信をつけていけるか、この一年必死でやらねばならないと思う。改めて身の引き締まる思いである』(男子学生)

入試専門委員会報告

平成21年度
医学科入試総括

医学科入試専門委員長 中根明夫
(感染症体防御学講座教授)

昨年六月の学士編入学第一次選抜試験に始まった平成二十一年度入試が無事に終了し、四月七日の入学式で新入生を迎えることができました。それぞれの選抜試験にお忙しい中試験監督や面接委員、出題委員、採点委員をしていただいた先生方および学務担当をはじめとした事務職員の方々に改めてお礼を申し上げます。平成二十一年度入試全体を振り返ってみますと、本学医学科においては前期日程の志願者倍率が八・五三倍と、昨年の高倍率を維持しました(表1)。昨年度、推薦入学では、臨時定員増十名分を加えた四十名とし

て募集しましたが、平成二十一年度は推薦入学を廃止し、アドミッション・オフィス(AO)入試を開始しました。それに伴って青森県枠と全国枠を廃止し、地域枠(青森全県、北海道渡島・松山支庁、秋田県北部、岩手県北部)として定員四十名を募集しました。AO入試は第一次選抜を平成二十年十一月八日・九日に行い、「模擬講義に関する筆記試験」「ケーススタディの自学自習」「集団面接」による評価を行い、受験者九十名から八十名を合格者としました。第二次選抜は十二月二十日・二十一日に行い、「個人面接」

「ワークシヨップ」による評価を行い、大学入試センター試験の結果(資格試験)を待って、最終的に四十名の合格者を決定しました。青森県が三十三名、岩手県が四名、北海道が三名という結果になりました。一方、昨年度に引き続き、「緊急医師確保対策」により十名の定員増が認められ、その十名は前期日程に「青森県定着枠」として、将来とも弘前大学医学部及びその関連施設で働くことが確約できる人を募集しました。定員十名のところ百四十四名の志願者となり、非常にハイレベルの選抜結果となりました。

入学者の出身地域をみますと(表2)、今年も青森県出身者が増加しました。昨年度の三十九名から四十二名となり、これに三年次学士編入学者を加えますと四十五名となり、将来の明かりが見えてきました。青森県出身入学者のうち三十三名がAO入試による入学者ですが、前期日程の入学者も昨年度の七名から九名と増加しました。青森県に次ぐのは、東京都十二名、茨城県五名、北海道、岩手県、千葉県各四名となりました。出身高等学校では、弘前高等学校十六名、青森高等学校十三名、八戸高等学校六名、盛岡第一高等学校四名と続き、特に弘前・青森の二校の強さが発揮されました。一方、高等学校卒業後の期間に関しては、現役が減少し、過年度生が増加しました(表3)。また、女子が三十七名、学士編入学を入れると四十二名となり、女子の比率が回復しました。平成二十一年度入学

表1. 志願者倍率 (カッコ内は受験者倍率)

年度	推薦入試	AO入試	前期日程	後期日程	計
17	3.90 (3.75)	—	10.92 (9.76)	17.60 (10.20)	10.00 (8.31)
18	4.00 (4.00)	—	6.16 (5.44)	12.00 (6.60)	5.85 (5.06)
19	3.03 (3.03)	—	5.44 (4.56)	—	4.54 (3.99)
20	3.45 (3.45)	—	8.34 (7.18)	—	6.17 (5.52)
21	—	2.25 (2.25)	8.53 (7.22)	—	6.02 (5.22)

募集人員：平成17年度は推薦入試は20、前期日程は50、後期日程は10。平成18年度は推薦入試25(うち青森県枠15)、前期日程50、後期日程5。平成19年度は推薦入試30(うち青森県枠20)、前期日程50、後期日程は廃止となった。平成20年度は臨時定員増10名があったため、推薦入試40(うち青森県内枠30)となった。平成21年度は推薦入試を廃止し、その定員をAO入試に移行し、すべて地域枠とした。また、新たな定員増10名は前期日程に青森県定着枠として設定した。この結果前期日程は60名となった。

表2. 地域別入学者数

年度	青森県	東北5県	北海道	その他	計
17	26 (17/9)	2 (1/1)	6 (4/2)	46 (37/9)	80 (59/21)
18	24 (15/9)	12 (9/3)	7 (4/3)	37 (26/11)	80 (54/26)
19	22 (11/11)	14 (10/4)	6 (5/1)	38 (25/13)	80 (51/29)
20	39 (27/12)	13 (9/4)	5 (4/1)	33 (28/5)	90 (68/22)
21	42 (22/20)	12 (9/3)	8 (5/3)	38 (27/11)	100 (63/37)

カッコ内は男女比

表3. 高校卒業後の期間別入学者数

年度	現役	1年	2年	3年以上	その他
17	33 (19/14)	13 (11/2)	12 (11/1)	22 (18/4)	0
18	33 (23/10)	20 (10/10)	13 (8/5)	14 (13/1)	0
19	37 (20/17)	20 (13/7)	12 (8/4)	11 (10/1)	0
20	50 (33/17)	16 (14/2)	5 (4/1)	18 (16/2)	1 (1/0)
21	41 (21/20)	26 (18/8)	19 (13/6)	14 (11/3)	0

カッコ内は男女比

表4. 平成22年度入試選抜試験日程

21年 6月28日(日)	三年次学士編入学第一次選抜(学力試験)
21年 8月23日(日)	三年次学士編入学第二次選抜(学力試験と集団面接)
21年 9月26日(土) 9月27日(日)	三年次学士編入学第三次選抜(個人面接)
21年 11月7日(土) 11月8日(日)	AO入学第一次選抜(模擬講義試験、個人面接)
21年 12月20日(日)	AO入学第二次選抜(ケーススタディの自学自習、ワークシヨップによる評価)
22年 1月16日(土) 1月17日(日)	大学入試センター試験
22年 2月25日(木) 2月26日(金)	前期日程選抜(学力試験) 前期日程選抜(集団面接)



弘前大学医学部 入学式の様子。壇上に立つ男性がマイクを持って挨拶している。背景には「弘前大学 医学部 入学式」と書かれた横断幕がある。壇上には花束が飾られている。

入学式の様子。壇上に立つ男性がマイクを持って挨拶している。背景には「弘前大学 医学部 入学式」と書かれた横断幕がある。壇上には花束が飾られている。

入学式の様子。壇上に立つ男性がマイクを持って挨拶している。背景には「弘前大学 医学部 入学式」と書かれた横断幕がある。壇上には花束が飾られている。

志願者総数は三年次編入学試験も含めると、奇しくも昨年度と全く同じで一〇七二名でした。平成二十二年度は久しぶりに大きな変更点がなく、前年度と同様な入試行事となります。すでに、五月十六日にAO入試を希望する受験生に弘前大学医学部医学科を十分理解してもらうためのスクーリングを実施し、受験生のみならず保護者や高校の進路指導の先生達も参加し、無事終了しま

した。また、三年次学士編入学の志願受付も開始し、すでに平成二十二年度の入試行事が開始しています。最後に平成二十二年度の入学選抜試験の予定を表4としてお知らせいたします。年を追う毎に教員あたりの仕事量が増加しています。が、入試業務は弘前大学の教員として根幹をなす仕事ですので、今年度も先生方のご協力をよろしくお願い申し上げます。

消化器外科学講座 教授 袴田健一

平成21年度
新入生歓迎会

平成二十一年度新入生歓迎パーティーが、四月八日

教員二十名が歓迎しました。

第一部では、弘前大学医学部五十周年記念ビデオ上映に引き続いて、石戸谷忻一鵬校友会理事長から弘前大学医学部の歴史と今についての母校愛に満ちたお話がありました。さらに、遠藤正彦学長、佐藤敬医学部長、花田勝美病院長、教授陣からは弘前大学医学部の未来を担う新入生への激励の言葉が次々と寄せられました。なお、主催者からは新入生全員に記念として医学科バッジと学友会誌が贈られ、代表して金吉秀君と太田香純さんが受け取りました。

第二部の新入生を囲んでの立食パーティーでは、サークル勧誘のための学部

学生も加わりにぎやかに歓談が行われ、実に楽しいひとときでありました。私も今からちょうど三十年前に入学いたしました。多くの同期生、クラブの先輩・後輩、下宿の仲間、食堂のおばさん、喫茶店のマスター、彼女(妻)、試験で鍛えていただいた憎き(?)教授達と出会えたそれからの六年間は記憶の宝箱です。新入生諸君、この弘前で素晴らしい学生生活を送ってください。

コラム

医学部
こぼれ話...

四月より新学期がはじまり、それに合わせ、基礎講義棟の改修工事も終了し、講義室内の机、椅子が一新された。清潔感あふれ快適な講義棟となったわけだが、医学部医学科定員増を実感する場所でもある。部屋の面積は変わらずに学生数は増えたわけで、机、椅子の数が増え、その増加が黒板側へも押し寄せている。講義の際、いままでにない近い距離に学生諸君の顔を見る、うれしくも、圧迫感ある状態となっている。ただ、中央最前列は、シャイな医学生が多いせい、空席であることも多い。本年度は、御席の数にまだ余裕があります、状態である。

今後、定員増ならぬ留級者増となり、立ち見、補助席が必要とならないようにしなければ。



人事異動

● 大学院医学研究科

昇任（21・3・1）

神経精神医学講座 准教授

古郡 規雄

（神経科精神科講師）

復職（21・3・5）

社会医学講座 助教

高橋 一平（研究休職より）

辞職（21・3・15）

臨床薬理学講座 助教

三浦 淳

（国立大学法人室蘭工業大学）

定年（21・3・31）

生体構造医科学講座 教授

加地 隆

（弘前医療福祉大学）

麻酔科学講座 助教

工藤 剛

辞職（21・3・31）

臨床薬理学講座 教授

立石 智則

（独立行政法人医薬品医療機器総合機構）

病理生命科学講座 講師

楠美 智巳

（青森県立中央病院）

病態薬理学講座 助教

木村 正臣

消化器血液内科学講座 助教

三上 達也（弘前市立病院）

救急・災害医学講座 助教

安達 淳治

消化器血液内科学講座 助手

山口 公平

（独立行政法人国立病院機構弘前病院）

皮膚科学講座 助手

滝吉 典子

（誠仁会尾野病院）

採用（21・4・1）

病態薬理学講座 助教

山田 雅大

（大館市立総合病院）

病理生命科学講座 助教

諸橋 聡子

消化器血液内科学講座 助教

花畑 憲洋

（五所川原市立西北中央病院）

神経精神医学講座 助教

斉藤 まなぶ

（弘前愛成会病院）

麻酔科学講座 助教

遠瀬 龍二

（附属病院病院助手）

糖鎖工学講座 助教

多田 羅洋太

糖鎖工学講座 助手

小泉 英誉

昇任（21・4・1）

消化器血液内科学講座 講師

山形 和史（附属病院助教）

配置換（21・4・1）

皮膚科学講座 助教

中島 康爾（附属病院助教）

勤務配置異動（21・4・1）

神経解剖・細胞組織学講座 助教

目黒 玲子

（生体構造医科学講座助教）

医学医療情報学講座 助教

松坂 方士

（社会医学講座助教）

辞職（21・5・15）

泌尿器科学講座 助教

畠山 真吾

（財団法人鷹揚郷腎研究所弘前病院）

● 医学部附属病院

採用（21・3・1）

産科婦人科 助教

木村 秀崇（むつ総合病院）

昇任（21・3・1）

神経科精神科 講師

菊池 淳宏

（神経精神医学講座・助教）

辞職（21・3・31）

神経科精神科 講師

栗林 理人

（青森県立つくしが丘病院）

呼吸器外科・心臓血管外科 助教

北川 映子（医員）

消化器外科 乳腺外科 甲状腺外科 助教

柴田 滋

（大館市立総合病院）

整形外科 助教

菊池 明

（十和田市立中央病院）

皮膚科 助教

池永 五月（医員）

耳鼻咽喉科 助教

二井 一則

（独立行政法人国立病院機構弘前病院）

放射線科 助教

対馬 史泰

（青森県立中央病院）

放射線科 助教

場崎 潔

（青森県立中央病院）

脳神経外科 助教

奈良岡 征都（医員）

検査部 助教

熊坂 隆一郎（市立函館病院）

周産母子センター 助教

奈良 昌樹

（大館市立総合病院）

配置換（21・4・1）

消化器内科・血液内科 膠原病内科 助教

佐藤 研

（消化器血液内科学講座 助教）

採用（21・4・1）

神経科精神科 助教

菅原 知子

（黒石あけぼの病院）

消化器外科 乳腺外科 甲状腺外科 助教

和嶋 直紀

（市立秋田総合病院）

整形外科 助教

山本 祐司（医員）

耳鼻咽喉科 助教

高畑 淳子

（独立行政法人国立病院機構弘前病院）

放射線科 助教

澁谷 剛一

（青森県立中央病院）

歯科口腔外科 助教

久保田 耕世（医員）

検査部 助教

村上 礼一（医員）

周産母子センター 助教

宮本 慶一（医員）

キャリアパス支援センター 助教

藤田 雄（村上新町病院）

呼吸器外科・心臓血管外科 助手

山内 早苗（医員）

皮膚科 助手

六戸 大樹（医員）

皮膚科 助手

木村 一之（医員）

弘前大学医学部

臨床教授・臨床准教授

称号付与者

臨床教授

井上 茂章（青森県立中央病院外科副部長）

平成二十一年四月一日～平成二十四年三月三十一日

館岡 博（大館市立総合病院長）

平成二十一年四月一日～平成二十四年三月三十一日

平野 敬之（大館市立総合病院神経精神科部長）

平成二十一年四月一日～平成二十四年三月三十一日

佐藤 章子（大館市立総合病院眼科部長）

平成二十一年四月一日～平成二十四年三月三十一日

森 康宏（青森市立青森市民病院医療局長）

平成二十一年四月一日～平成二十四年三月三十一日

小川 吉司（青森県立中央病院糖尿ユニット部長）

平成二十一年四月一日～平成二十四年三月三十一日

増田 光男（青森市立青森市民病院副院長）

平成二十一年四月一日～平成二十四年三月三十一日

上原 修（黒石市国民健康保険黒石病院糖尿病内分泌内科部長）

平成二十一年四月一日～平成二十四年三月三十一日

遠藤 正章（青森市立青森市民病院副院長）

平成二十一年四月一日～平成二十四年三月三十一日

橋爪 正（青森市立青森市民病院外科部長）

平成二十一年四月一日～平成二十四年三月三十一日

柴崎 至（青森市立青森市民病院外科部長）

平成二十一年四月一日～平成二十四年三月三十一日

陰山 俊之（社会医療法人博進会南部病院）

平成二十一年四月一日～平成二十四年三月三十一日

佐藤 裕（五所川原市立西北中央病院副院長）

平成二十一年四月一日～平成二十四年三月三十一日

畑山 徹（青森市立青森市民病院副院長）

平成二十一年四月一日～平成二十四年三月三十一日

高田 博仁（独立行政法人国立病院機構青森病院副院長）

平成二十一年四月一日～平成二十四年三月三十一日

坪 健司（青森市立青森市民病院整形外科部長）

平成二十一年四月一日～平成二十四年三月三十一日

弘前大学

後援会のご案内

弘前大学後援会では、学生の学業、課外活動への助成、学生の進路指導に必要な助成等学生生活の多岐にわたる分野の助成を行っております。つまましては、何卒本会の趣旨に御賛同頂きまして、各位の格別の御高配、御

臨床准教授

吉町 文暢（青森県立中央病院循環器部長）

平成二十一年四月一日～平成二十四年三月三十一日

松浦 修（むつ総合病院外科副部長）

平成二十一年四月一日～平成二十四年三月三十一日

山田 恭吾（むつ総合病院外科副部長）

平成二十一年四月一日～平成二十四年三月三十一日

奈良 昌樹（大館市立総合病院外科部長）

平成二十一年四月一日～平成二十四年三月三十一日

伊藤 勝博（青森市立青森市民病院脳神経外科部長）

平成二十一年四月一日～平成二十四年三月三十一日

奥島 敏美（八戸市立市民病院神経内科部長）

平成二十一年四月一日～平成二十四年三月三十一日

新渡戸泰輔（五所川原市立西北中央病院整形外科部長）

平成二十一年四月一日～平成二十四年三月三十一日

編集後記

医学部ウォーカーへ教授就任ご挨拶を掲載希望の方は、弘前大学医学研究科総務グループ（総務担当）までご連絡願います（0172-395194）。ただし、紙面の都合により掲載ができない場合もございますので、あらかじめご了承ください。

お知らせ

新年度が始まりました。今年度は弘前大学創立六十周年記念式典や太宰治の生誕百周年などがあり、何かと記念行事に忙しい年のようです。景気のはうはと言うと何とか底を打ちそうな兆しが顕われていて大型補正予算案も成立したばかりです。大学にも基盤整備や大型研究費獲得の機会が回ってきてそちらも慌ただしい様子です。

ところで、今や大学や個人研究者も自己アピールの時代でこれ如何にうまくこなすかということが社会で成功するのに極めて大事なことになるています。お隣の岩手県民はこれが非常にうまく、青森県民はうまくないというのが専らの評であるように思います。青森県生まれである私も全く例にもれずアピール下手です。これはやはり県民性としてあるような気がします。研究者個人を考えたみても、自分の発見を積極的に新聞等に売り込む人もいれば、極力控える人もいます。昔から日本人の美德などとは研究者社会では悪徳の最たるものです。矛盾する教えの中に生きているわけですが、美德は美德として保ちながらTPO次第で立ち居振る舞いを変えていく器用さが現代日本人には必要とされているような気がします。（伊東）